

下 卷 目 次

第7章 隠れた変数の理論

7.1	隠れた変数への動機	307
7.2	量子力学以前の隠れた変数	311
7.3	量子力学における初期の隠れた変数	315
7.4	von Neumann の“不可能性”の証明とその反響	319
7.5	Bohm による隠れた変数の復活	332
7.6	Gleason, Jauch およびその他の人々の仕事	350
7.7	Bell の寄与	357
7.8	隠れた変数についての最近の仕事	367
7.9	実験へのアピール	385
	第7章への註	395

第8章 量子論理

8.1	量子論理の歴史的起源	413
8.2	非分配論理と相補性論理	418
8.3	多値論理	430
8.4	代数的アプローチ	449
8.5	公理的アプローチ	453
8.6	量子論理と論理学	470
8.7	一般化	481
	第8章への註	487

第9章 ストカスティックな解釈

9.1	形式上のアナロジー	505
9.2	初期のストカスティックな解釈	512
9.3	その後の発展	517

第10章 統計的解釈

- 10.1 歴史的起源 529
- 10.2 イデオロギー上の理由 532
- 10.3 Popper から Landé へ 535
- 10.4 その他の試み 552

第11章 測定理論

- 11.1 古典物理学における測定と量子物理学における測定 565
- 11.2 von Neumann の測定理論 569
- 11.3 London および Bauer の解説 575
- 11.4 von Neumann の理論にかわるいくつかの測定理論 579
- 11.5 潜在性の理論 596
- 11.6 多-世界の理論 599

付録 東 論 624

訳者あとがき 631

人名索引 642

上巻の内容

- 第1章 形式と解釈
- 第2章 初期の半古典的解釈
- 第3章 不確定性関係
- 第4章 初期の相補性解釈の説明
- 第5章 Bohr - Einstein 論争
- 第6章 不完全性の反論と後期の相補性解釈の説明